

めでる



【加茂神社・別雷皇宮（米原市醒井）】

Contents

- 2 特集
令和7年8月25日(月)～26日(火)
夏の宿泊研修 in 彦根市・米原市方面
- 訪問先の皆様からのメッセージ
 - 宿泊研修に参加して(学生の声)
- 12 「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ2025
- 第一弾！ 訪問看護における多職種連携について
 - 第二弾！ ウェルビーイングから捉える地域医療
 - 第三弾！ 災害下におけるフェーズレスなプライマリ・ケアの実践
- 15 紹介コーナー
- 「看護職合同就職説明会」を開催しました
 - 令和7年度 里親学生支援事業 研修会・意見交換会を開催しました
 - 滋賀県医師キャリアサポートセンターからのお知らせ
 - 医療を支える“つながり”の中で、あなたが活躍するために
- 20 編集後記

夏の宿泊研修 in 彦根市・米原市方面

令和7年8月25日(月)～26日(火)



交流会 *魚清

訪問先の関係者の方々や行政の方々、里千里親の方にご参加いただき、学生と交いただきました。貴重な意見交換、懇談の



先輩方のお話もたくさん聞いて、医師の働き方もいろいろあるのだと、将来の人生設計の参考にもなり、参加して良かったと思います。

参加学生感想より

1日目

彦根市地域の方々とのワークショップ

彦根保健所の協力のもと、彦根市にお住まいの「彦根市精神障害者家族会集まるう会」など4団体の代表の方、当事者の方にお集まりいただき、ご自身の体験談を交えながら活動の内容などをご紹介いただきました。また、後半にはグループワークを行い、精神障害（疾患）の理解の大切さや、何でも話せる場所の必要性などを学ぶことができました。



当事者の方やご家族から直接お話を伺うことで、「どのような点を理解してほしいのか」「どのような点が難しいのか」といった生の声を知ることができ、今後の実習にも活かしていきたいと感じました。

参加学生感想より



当事者の方やそのご家族の悩みや願望、医師には当事者の方から考えてどんな声かけや対応をして欲しいかなどの生の声が聞け、貴重な経験をさせていただきました。

参加学生感想より

医療機関の中で医療従事者として対面していたらきっと聞けないであろう、医療や医療従事者に対する本音をお聞かせいただき言葉の一つ一つが心に残りました。

参加学生感想より

米原市地域包括医療福祉センター ふくしあ

米原・近江地域の地域包括ケアの拠点となる米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」を訪問しました。中村センター長から病院の概要、実例を交えながら米原市の地域包括ケアの取り組みの歴史や、米原市初の病児保育の実現など、働く世代への環境整備の構築などについてお話しいただきました。



醒ヶ井地域散策

一日目の最後は中山道の61番目の宿場とした醒ヶ井宿を散策しました。地蔵川には梅花おり、猛暑の中の散策となりましたが、可愛ンクの花を見ることができ、少し涼を感じるした。



地域包括支援センターならではの温かさや、利用者に寄り添いながら課題解決を模索する工夫を知ることができた一方で、その解決策を見出す難しさも実感した。

参加学生感想より



地域医療への貢献は私が大学への入学を決めた理由のひとつであり、その思いは変わらず持ち続けてきたが、地域医療の現状や課題についてわかっていないことばかりであったことを実感した。

参加学生感想より

湖北地域が抱えている問題とそれに立ち向かう医療従事者の生の声は、大学の講義ではなかなか実感の湧かない地域医療についてより具体的なイメージを掴むのにとっても有益でした。

参加学生感想より

今までは、看護師になる人を増やせば人手不足は解決するのではないかと単純に考えていましたが、現時点ですでに不足している地域では、看護師になる人が増えるのを待つのではなく、特定行為をできる看護師を増やすなどの人材を育てるという選択をしていると知り、今いる人たちが、医療をより効率化しているとわかりました。

参加学生感想より

家族の生活をまるごと見守る地域医療の一部に携わるという自覚を持って患者さんと関わっていきたくと改めて決意するきっかけになった。

参加学生感想より

滋賀県に住んでいても行ったことのないところが多く、その地域を散策できてとても楽しかった。醒ヶ井地域の散策は少し時間が短かったのでまた自分でも行ってみたいと思いました。

参加学生感想より

医療従事者の方々の貴重なお話を伺うことができたので、滋賀県で求められている医療がどのようなものか、初めて体感することができました。

参加学生感想より

今回も地域の方々をはじめ沢山の医療関係者等のだき、学びの多い研修となりました。ありがとうご



2日目

彦根市立病院

中野院長からご挨拶いただいた後、病院の概要について説明をいただきました。病院毎の役割、病院の環境を守りつつ住民に愛される病院づくりの大切さ、今後この地域で完結できる医療体制の構築などをお話いただきました。

続いて、在宅診療科の世尾部長から、在宅診療についてご説明いただきました後、地域連携センターの西村副参事に看護師特定行為の実際の症例を交えて説明いただきました。

最後に、3班に分かれて救急、循環器内科、手術室、ヘリポートなど院内を見学させていただきました。



彦根市のような広い地域の医療の中核を担う病院の機能や構造について、実際の設備を拝見し大変学びになりました。中規模の病院と地域の診療所や他の病院との連携について病院の医師や看護師の先生方から直接伺い、深く学ぶことができました。
参加学生感想より

医療従事者のみならず、地域の方々の取り組みによって、患者さんの居場所作りが実現できているということを実感しました。
参加学生感想より



実際に地域で医療に貢献する医師をはじめ施設スタッフの方々にお会いし、直接お話を聞いたことで、今回訪問させていただいた施設の存在というものが、どれだけその地域で暮らし続ける人々の安心を支えているかを感じることができました。
参加学生感想より

特に、地域で活動されている医療・福祉関係者の方々の熱意や現場の雰囲気を感じられたことが印象的でした。
参加学生感想より

その人らしさやその地域に合わせた医療提供の重要性を再認識した。将来看護師として働く際には、患者さんの気持ちに寄り添いながら、その人が地域で安心して暮らせるように、退院後の生活も考えながら支援できる存在になりたいと思った。
参加学生感想より

彦根城



地域の住民の方々の医療に対する見方や、医療機関で実際に行われている取り組みについて学ぶことができ、地域医療の重要性を実感しました。
参加学生感想より

地域包括ケアセンターいぶき

米原市の山東・伊吹地域の地域包括ケアの拠点となる地域包括ケアセンターいぶきを訪問しました。畑野センター長からセンターの概要やセンター建設の経緯など説明いただきました。医療と介護を用いた施設であること、家で診ることを大事にしているため、ベッドを持たない無床診療所であることなど、医療者のための医療ではなく住民に喜ばれる・評価される医療であることが大事と学生へお話しいただきました。その後、2班に分かれて、センター内を見学させていただきました。



地域散策も良い経験になった。今回は醒ヶ井地域と彦根城の散策をしたが、地域の歴史や街並みを知ってその地域に魅力を感じた。
参加学生感想より

～里親学生支援室からのお願い～

将来、滋賀県内で働くことに興味を持っている学生（里子）に対して、県下で活躍する一先輩として、学生生活や将来の進路などの相談にのるアドバイザー（里親）を募集しています。本事業に賛同していただける方は、里親学生支援室までメールで職業・氏名・「里親希望」と明記の上、お申し出いただきますようお願い申し上げます。（事業の詳細はHPをご覧ください）

お問い合わせ先 滋賀医科大学里親学生支援室 TEL：077-548-2072
E-mail：satooya@belle.shiga-med.ac.jp
URL：https://www.shiga-med.ac.jp/~satooya/

方々にご協力いただきました。



■ 地域で働く医療職から皆様へ

湖東健康福祉事務所(彦根保健所)
地域保健福祉係 保健師

池田 はるか



■ 8月25日宿泊研修 ワークショップについて

保健所は地域の生活を支える相談先です。日々患者さんやご家族からの相談に応じており、地域で活動する方との関わりも欠かせません。今回のワークショップでは彦根圏域で活動する5団体の方にお集まりいただきました。交流をとおして、地域で生活する方のニーズを感じ取っていただければ幸いです。

■ 保健所とは

みなさんは「保健所」というと、どのようなイメージでしょうか。医療機関や企業では、患者さんやお客さんが来ることを待ちますが、保健所は「疾患の有無に関わらず」すべての住民を対象としており、こちらから出向くこと（アウトリーチ）ができます。言い過ぎかもしれませんが「他の機関では手が届かないところにまで手が届く唯一の公的機関」それが保健所です。

滋賀県では、保健師を県庁、各保健所、子ども家庭相談センターや精神保健福祉センター等に配置するため、保健師は地域住民の生活を面で支えることができ、様々な経験を積むことができます。また、所長をはじめとした公衆衛生医師も保健所に配置されています。

■ 将来の医療人のみなさんへ

実は私自身、滋賀医科大学在学中は里子として、里親の先生に大変お世話になりました。宿泊研修をさせていただき、県内の医療機関・福祉施設の見学もさせていただいたのはとても良い経験となりました。

滋賀県を一言で表すと「田舎の都会」だと思います。自然豊かだけれども、生活するには十分便利な場所です。住みよい街滋賀県の魅力を感じ、滋賀で働きたいと思う学生が一人でも増えればうれしく思います。ぜひ滋賀の医療を担う一員として、皆さんと一緒に働くことができる日を心待ちにしています。



8月25日 宿泊研修 ワークショップの様子

■ 米原市の福祉と幸せを支える「ふくしあ」

米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」
センター長

中村 泰之

「ふくしあ」という愛称は、福祉と幸せを掛け合わせて生まれた言葉です。また、交友・信頼・暖かい心という花言葉を持つフクシアという花の名前にもかけて、利用者とスタッフが信頼し合い、地域医療の拠点となって、米原市の「しあわせ」を一つでも支える施設になれるよう、日々運営してきました。

令和7年10月に開設10周年を迎えることになり、現在では、「ふくしあ」という名を皆さんに知っていただき多くの方々にご利用いただいています。

センター内には、保健・医療・福祉サービスを包括的に提供する機能があり、在宅24時間支援診療所の近江診療所、病児・病後児保育室おおぞら、児童発達支援センターてらす（児童発達支援、保育所等訪問支援、放課後等デイサービス、児童発達相談支援）、地域包括支援センター、認知症初期集中支援チームという多種多様な業務を行う施設で、世代を超えた地域の方々に寄り添う機能になっています。

私たちが掲げる基本方針は、「全世代に対応する地域包括ケア」の実現を目指して、

- ① 地域とのつながりを大切に包括した医療・福祉を推進します。
- ② つながりをますます広げていき、地域の多職種連携を強化します。
- ③ 常に感謝の気持ちを大切に少しでも社会に貢献できるように努力します。

とし、地域の方々や関係機関のすべてがつながりを持って、地域全体で高齢者や小児、障害のある方等の生活を支えるための中心となることを目標としています。

研修では、この施設の紹介や私の経験談などの紹介をしましたが、それは、多くの人々のつながりがあって出来てきたことです。医療関係者だけでなく、地域の方々、他の分野の方々も常につながりあっておくことが、あらゆる難題を解決してくれると信じています。



訪問診療の様子



施設外観とスタッフ



研修の様子



■ 彦根市立病院から未来の医療を担うみなさんへ

彦根市立病院 地域連携センター副参事(兼看護部副部長)

西村 紀子

当院は明治24年に創設された滋賀県下でもっとも歴史のある病院です。2002年に彦根城の傍から現在の場所に移転し、「住み慣れた地域で健康をささえ、安心とぬくもりのある病院」を基本理念として、良質で安全な医療の提供に努めています。

当院が果たすべき大きな役割のひとつに湖東圏域の急性期医療を要する患者への対応が挙げられます。この役割を果たすべく年間4,700台を超える救急車を受け入れ（応需率99.2%）、その他にもウォークインの救急患者も含めると年間で16,000人以上の救急患者の診療を行っています。しかしながら当院の入院病床には限りがあるため、圏域内の他病院と密に連携を取りながら病状が安定した患者については入院前の転送や早期の転院調整をすることで、重症患者の入院病床の確保に努めています。

このように救急・重症患者対応に力を入れる一方、この圏域に不足している在宅医療への貢献も当院に求められる大きな役割のひとつです。そのための方策として、訪問診療を行う在宅診療科を10年前に開設（院内標榜）しています。皆さんが当院に来てくださった際に在宅診療科の笹尾医師からお話させていただいたように、当院の訪問診療の主な対象は在宅レスピレーターを使用中の患者やがん終末期等の医療依存度の高い患者が多くなっています。病院の中に訪問診療部門があるという強みを最大限活かすことによって、実際に訪問診療を利用している患者・家族からは「必要時には普段訪問診療で診てくれている医師が主治医となって入院での治療をしてもらえたり、他の診療科の医師とも連携を取ってもらえるので安心して在宅療養を続けられる」という声が聞かれています。

訪問診療以外にも、看護師特定行為を用いた地域連携にも積極的に取り組んでいます。地域のかかりつけ医や訪問看護師からの依頼で、在宅で褥瘡部の壊死組織のデブリードマンを行なっていることや、神経難病で在宅レスピレーターを使用中の方の胃ろうチューブ交換の様子等を紹介させていただきました。

研修当日は皆さんから、病院やかかりつけ医との連携の実際や当院で実践しているチーム医療についてのご質問をいただき、当院の活動に興味を持っていただけたことを嬉しく思います。希望にあふれる若い皆さんと一緒に働いたり、所属する組織や立場は違えども協働できる機会があることを楽しみにしております。



当院の全景



在宅で看護師特定行為(壊死組織の除去)をしている様子

■ 地域包括ケアセンターいぶきから皆様へ

地域包括ケアセンターいぶき
センター長

畑野 秀樹



1) 施設の概要

8月26日にはたくさんの学生さんや職員の方に訪問いただき、ありがとうございました。地域包括ケアセンターいぶきは、伊吹山の麓に位置しており、地域の子どもから高齢者までの住民に安心な暮らしを提供する医療と福祉の複合施設です。診療所・リハビリテーション・居宅介護支援事業所・通所リハビリ（デイケア）・介護老人保健施設（老健）を併設し、医療・介護サービスの切れ目ない提供に努めています。

ケアセンターいぶきでは、年に10名程度の研修医、30～50名程度の学生が来られます。学生は医学生・看護学生のほか、薬学部、リハビリテーションなどの学生です。各職種の研修や実習を経験しつつ、多職種が協働していることも学んでいただき、地域包括ケアシステムを肌で感じてもらうと計画しています。

米原市は人口37,000人の人口の少ない市で、入院できる病院もなく、入院が必要な患者さんは長浜市や彦根市など近隣市の病院へ紹介しています。それゆえ、診療所においては総合的に診る医師が求められています。内科や小児科、整形外科などあらゆる分野の病気を診ながら、診療所でできる検査や処置を行い、専門医の受診が必要な患者は病院へ紹介しています。病院へのアクセスがしにくい分、往診・訪問診療といった在宅医療に力を入れています。患者は自宅=homeにて医療や看護・介護が受けられるので喜んでいただいています。また老健施設（60床）では、リハビリをして元気になってもらい、栄養面での介入を行い、安全に食べることに注力しています。夜間・休日も看護師が常駐しているので医療的処置が必要な方も安心して入所されています。



2) 将来の医療人への期待

若い医療者の皆さんは、今一生懸命「いのちを救う」勉強をされていることと思います。是非その勉強を続けていっていただきたいと思います。できればそれに加えて「いのちの豊かさ」にも意識を向けていただけるとありがたいです。治らない病気、一生付き合っていかなければならない病気もあります。病気や障害を持って「いきいきとこころ豊か」に暮らしていくことは可能ですし、そのための支援を皆さんにはお願いしたいと思います。



研修の様子

宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学 医学科 第1学年

宿泊研修に初めて参加しました。今回の研修では医療機関だけでなく市民団体の方々の話を伺うなど、湖北地域の「市民生活→福祉→医療」の全体像を少し垣間見ることができました。米原市のふくしあ、いぶきでは院長先生の地域医療に対する思いを聞くことができました。湖北地域が抱えている問題とそれに立ち向かう医療従事者の生の声は、大学の講義ではなかなか実感の湧かない地域医療についてより具体的なイメージを掴むのにとっても有益でした。

彦根市立病院では手術室や研修医室を見学させていただきました。今後のキャリアプランの参考にしたいと思えます。とても暑かったです。観光でよく歩いたので地域の美味しいものをさらに美味しくいただくことができました。また参加したいと思います。

滋賀医科大学 医学科 第1学年

今回、初めて宿泊研修に参加させていただき、特に彦根市地域で活動する方とのワークショップが印象に残っています。そこでは、精神疾患や障害のある方や、その方たちを支えるご家族の方の相談できる場をもうけておられる方と直接お話をさせていただく機会を持ち、当事者の方やそのご家族の悩みや願望、医師には当事者の方から考えてどんな声かけや対応をして欲しいかなどの生の声が聞け、貴重な経験をさせていただきました。また、地域包括センターでは、先生のお話を聞き、医療と福祉が組み合わさることの可能性を感じ、自分のこれからのキャリアの夢が広がった気がします。住み慣れた滋賀県ですが、今回の研修で新たな一面も発見することができ、もっと滋賀県が好きになりました。

滋賀医科大学 医学科 第1学年

精神障がいなどの当事者やその方々の家族のお話を聴く機会があったのがとても有意義でした。病院などで治療を受けた後の生活をどう行なっていくかが重要であることがよく分かりました。医療関係者は、そのことを知り、または想像しながら、医療行為をすることが大切なのではないかと思いました。医療、福祉、生活をシームレスに繋げるために、医療関係者は何ができるのかをじっくりと考える機会をいただきました。

また、1つの病院、2つのケアセンターのお話から、その時代の地域の状況に合わせた医療を作り出していくことが大切であることを学びました。そのために必要なこととして、地域の状況を知ること、行政としっかり連携すること等を学びました。

今回の研修を通して、私自身が医師になった際には、医療関係の方だけでなく様々な方々と連携しながら医療をしていきたいという気持ちが強くなりました。これからももっと色々な関係団体のことや滋賀県の地域について理解できるように学んでいきたいと思えます。



滋賀医科大学 医学科 第1学年

今回の研修に参加して普段できない体験をたくさん経験することができました。地域散策はとても楽しかったです。ずっと滋賀県に住んでいても行ったことのないところが多く、その地域を散策できてとても楽しかったです。醒ヶ井地域の散策は少し時間が短かったのでまた自分でも行ってみたいと思いました。交流会では精神疾患を経験した、あるいはご家族がなられた方達のお話を直接聞けてとても貴重でした。地域包括ケアセンターいぶきや医療福祉センターふくしあでは地域医療をどのように行っているのかを聞かせていただきました。治療よりも人と人とのつながりを大切にされているのがとても伝わってきました。彦根市立病院ではどのような役割を持っているのかを聞かせていただきました。そして院内を見学させていただきました。総合病院でも地域医療を大切にされていることをお聞きして、地域医療の大切さを改めて感じました。今回の研修でさまざまな施設を見学し、地域を散策できてとても楽しかったです。

滋賀医科大学 医学科 第1学年

今回の里親研修で最も印象に残っているのは、1日目のワークショップで精神障害を患っている方と話したことである。これまで医療者側のお話を聞く機会が多くあったが、心身に問題を抱えている当事者の方とお話をすることは初めてだったので、患者側が思っていることをお聞きでき勉強になった。私がそこで学んだことは、集まれる場作りの重要性である。私がお話したサタデーピアの方は自身も精神障害を患っており、サタデーピアに行って仲間ができ、あたたかく見守ってもらったことが心の支えとなったと話しておられた。このような、仲間がいて悩みを受け止めてもらう場があるという安心感は医療において重要なことであると感じた。

また、地域散策も良い経験になった。今回は醒ヶ井地域と彦根市の散策をしたが、地域の歴史や街並みを知ってその地域に魅力を感じた。地域の魅力は、風景や行政・医療サービス、そしてそこに暮らす人々など様々である。自分がそれらの魅力を知り、その地域を好きになることはもちろん、他の人にも魅力を発信し知ってもらうことは、その地域の医療に積極的に携わりたいという思いにつながる。そして、医療者自身がこのようなポジティブな感情を抱いて地域に関わることが、地域医療を持続させていくうえで重要であると考えた。

滋賀医科大学 医学科 第1学年

今回の宿泊研修では、彦根市および米原市の医療機関と観光地を効率よく巡ることができました。自分一人で行くまでの旅程を組むことは現実的には難しいので、この機会に参加できて大変良かったと感じました。研修では、地域の住民の方々の医療に対する見方や、医療機関で実際に行われている取り組みについて学ぶことができ、地域医療の重要性を実感しました。また、普段の学生生活では交流の少ない看護学科や滋賀県立大の方々と関わることで、自分の視野を広げる貴重な経験となりました。機会があれば、また参加したいと思います。

宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学 医学科 第2学年

里親研修に参加して、彦根市と米原市の観光地を散策したり地域医療の現場を見学したりと、滋賀県の知らなかった魅力をたくさん見ることができました。

先輩方のお話もたくさん聞けて、医師の働き方もいろいろあるのだなと、将来の人生設計の参考にもなり、参加して良かったと思います。

今まで地域医療で働くということが、どういうことなのかいまいち理解していませんでしたが、今回の研修でなんとなくイメージすることができるようになったので、実際に現地に赴き現場をみることは大事だと感じました。

研修に参加して、地域に根付いた医療を提供できる医師を目指すのも良いかなあと思うようになりました。

滋賀医科大学 医学科 第2学年

今回訪問した彦根・米原エリアだけでも実に様々な医療の形があること、またそこに関わるキーマンの皆様の思いに触れることができ、これから滋賀県で医療を学んでいくことがより一層楽しみにになりました。

今回の研修内容は、地域包括ケアシステムを構成する多様な事業者の皆様(病院、診療所、保健所、介護施設、福祉団体など)から、一度に学ぶことができる構成になっており、非常に充実したものだと感じました。

また今回の研修を通じて、医学生は、自分からアクションしていくことで、通常では考えられない機会をいただくことができる、恵まれた立場にあるのだと感じました。今後の学生生活においても、どんどんフィールドに出ていく機会を、自らつくっていくと思いました。

大変喜びの多い貴重な機会をいただき、ありがとうございます。ぜひ、来年も参加させていただければと思います。

滋賀医科大学 医学科 第2学年

実際に地域で医療に貢献する医師をはじめ施設スタッフの方々にお会いし、直接お話を聞けたことで、今回訪問させていただいた施設の存在というものが、どれだけその地域で暮らし続ける人々の安心を支えているかを感じることができました。

また、患者さんを支える様々なNPO団体の活動も知り、地域医療は病院などの医療機関だけでなく、地域全体で行うものなのだということを実感しました。

さらに、地域医療を学ぶことだけでなく、彦根城や醒ヶ井地区の探索といった文化や歴史などにも触れることができ、大変充実した2日間となりました。ぜひ次回も参加したいと思います。

研修先施設の皆さまをはじめ、企画・お世話してくださったスタッフの皆さま、誠にありがとうございました。

滋賀医科大学 医学科 第2学年

彦根市立病院への見学では、彦根市のような広い地域の医療の中核を担う病院の機能や構造について、実際の設備を拝見し大変学びになりました。中規模の病院と地域の診療所や他の病院との連携について病院の医師や看護師の先生方から直接伺い、深く学ぶことができました。地域包括ケアセンターいぶきでは診療所としての機能の他に、特別養護老人ホームやリハビリテーション施設としての機能、設備を兼ね備えた施設であることを実際の設備を通して学びました。見学の際に、畑野先生がリハビリテーションの場がセンターに於いて最も重要であると仰っていたことが印象的でした。

滋賀医科大学 医学科 第2学年

私は今回初めて宿泊研修に参加させていただきました。研修では滋賀県の地域医療を担う施設を実際に見学させていただき、また、医療従事者の方々の貴重なお話を伺うことができたので、滋賀県で求められている医療がどのようなものか、初めて体感することができました。また、今回の宿泊研修では彦根城や醒ヶ井の散策もさせていただくことができ、滋賀県の自然の豊かさを感じることができました。私は滋賀県出身ではないのですが、滋賀県の素晴らしさを感じることができた研修でした。

滋賀医科大学 医学科 第3学年

今回の研修も地域見学、ワークショップ、病院見学と盛りだくさんの内容でした。なかでも最も記憶に残っているのはピアサポート団体の方々とワークショップです。過去に参加した宿泊研修でも福祉や行政など医療従事者以外の方とお話する機会はありませんでしたが、当事者の方たちと直接お話しするのは初めてだったと思います。医療機関の中で医療従事者として対面していたらきっと聞けないであろう、医療や医療従事者に対する本音をお聞かせいただき言葉の一つ一つが心に残りました。

滋賀医科大学 医学科 第2学年

8月25～26日の宿泊研修では、病院訪問や地域見学を通して地域医療の重要性を改めて実感し、将来の進路を考えるよいきっかけとなりました。特に、地域で活動されている医療・福祉関係者の方々の熱意や現場の雰囲気を感じることが印象的でした。今回の経験を通じて、地域医療や福祉分野への関心がさらに高まり、将来は滋賀の湖北の方で研鑽を積むのもよいと考えようになりました。学びの多い研修をありがとうございました。

滋賀医科大学 医学科 第3学年

彦根市保健所の方々が企画してくださった、地域住民の方との交流会が印象的でした。やはりどうしても医師という診察室で患者さんと向き合う姿を想像しますが、平野先生のそれだけでは救えない人がいると気付いて保健所へ移ったというお話に驚きました。また、地域で活動されている方々のお話は、近隣に住んでいる者としても医学生としても学びや気付きの多いものでした。

宿泊研修に参加して (学生の声)

滋賀医科大学 看護学科 第1学年

今回の宿泊研修に参加して、滋賀の地域医療について知ることができました。それぞれの地域がニーズに合わせて医療を提供していることがよくわかりました。また、病院や診療所への訪問だけでなく、実際に病気になられた方やそのご家族のお話を聞き取ることでもきて、貴重な経験をさせていただきました。当事者しかわからない気持ちを少しは感じることができたと思います。次回からの宿泊研修も参加させていただきたいと思いました。

滋賀医科大学 看護学科 第1学年

宿泊研修は、実際に地域医療を担っている方の話を聞ける良い機会だった。18年滋賀県に住んでいるので、滋賀県ことは知っているつもりだったが、まだまだ自分の知らない場所があるということを実感した。これからも積極的に滋賀県の地域医療について学んで行きたいと思った。また、普段あまり関わることの無い他学年や医学科、滋賀県立大学の学生との交流を通して、自分とは違う視点を見つけることが出来たのも良かったと思う。

滋賀医科大学 看護学科 第1学年

今回の里親研修に参加して、滋賀県の地域医療がどのように行われているのか知ることができました。直接、施設の方のお話を聞かせていただき、在宅医療が重要視されていると学びました。病院も少なく、人手が足りていない地域において、医療と福祉の協力体制を作ることがいかに大事かを実感することができました。また、今までは、看護師になる人を増やせば人手不足は解決するのではないかと単純に考えていましたが、現時点ですでに不足している地域では、看護師になる人が増えるのを待つのではなく、特定行為をできる看護師を増やすなどの人材を育てるという選択をしていると知り、今いる人たちが、医療をより効率化しているとわかりました。

さらに、今回の研修旅行で、実際に話を伺ったり、現場を見たりしないと学べないことを沢山学ぶことができ、貴重な経験になりました。

滋賀医科大学 看護学科 第3学年

前回は里親研修に参加させていただき、滋賀県出身でも湖北地域はなかなか行く機会がないので、その地域の特色や医療に触れる貴重な体験ができました。今回の研修では特に、サタデーピアさんなどの普段病院ではなかなかお会い出来ない方のお話を聞くことが出来ました。医療従事者のみならず、地域の方々の取り組みによって、患者さんの居場所作りが実現できているということを実感しました。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

滋賀医科大学 看護学科 第1学年

福祉センターや病院では、講義ではわからない施設の雰囲気や利用者さんの様子を身近に感じ、ワークショップを通して、実際に医療や福祉の支援を必要とした当事者の方やそのご家族の声を聞いた。こうしたことから、医療人としてどのようなことが必要とされているのかや、これから自分がどのような医療人を目指すのか考えることができた。

また、滋賀医大の違う学科や学年、また県立大学の学生と交流をする機会は普段はほとんどなく、今回の2日間の宿泊研修で交流を深めることができ、良い経験になった。

滋賀医科大学 看護学科 第3学年

当事者の方やご家族から直接お話を伺うことで、「どのような点を理解してほしいのか」「どのような点が難しいのか」といった生の声を知ることができ、今後の実習にも活かしていきたいと感じた。精神疾患は目に見えにくいいため、見守りの姿勢が大切であることも学んだ。

ふくしあでは、地域包括支援センターならではの温かさや、利用者の方に寄り添いながら課題解決を模索する工夫を知ることができた一方で、その解決策を見出す難しさも実感した。また、患者さんとの信頼関係が非常に強い印象を受け、人と関わる際にどのような工夫や配慮をしているのか、さらに知りたいと思った。

彦根市立病院では、普段見ることのできないヘリポートや処置の現場を実際に見学することができ、貴重な大変有意義な経験となった。

滋賀医科大学 看護学科 第1学年

1泊2日の宿泊研修、ありがとうございました。この宿泊研修には初めて参加させていただきました。大学の授業でも滋賀県の医療について学ぶ機会はありませんでしたが、実際に地域の病院や福祉施設などを訪れ、現場で地域医療に触れることで、より具体的に深い理解を得ることができました。講義だけではわからない、医療・福祉の現場の雰囲気や専門職の方々の工夫、地域ならではの課題などを直接感じられたのは、非常に貴重な経験だったと思います。また、同じ医療職を目指す学生さんたちと話すことができたのも、とてもいい経験になりました。普段あまり関わることのなかった人たちとも交流できて、新しい出会いがあったことが嬉しかったです。学生同士で意見を交わす中で、さまざまな考え方や価値観に触れることができ、学びがさらに深まりました。この宿泊研修で得た学びを将来に役立てていきたいです。



宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀県立大学 人間看護学部 第1学年

私は3歳ごろまでは米原市、それ以降はずっと彦根市で暮らしているため、私にとっては馴染みの深い地域ではあったが、初めて見学させていただく施設があたり知らなかった情報を得ることができて新鮮だった。地域医療への貢献は私が大学への入学を決めた理由のひとつであり、その思いは変わらず持ち続けてきたが、地域医療の現状や課題についてわかっていないことばかりであったことを実感した。また、滋賀医科大学医学部の医学科・看護学科の方々と一緒に学ばせていただくことができ、自分とは違う視点の意見や考え方に触れ、ひとつの情報をいろんな角度から考えることができた。今回学ばせていただいたことだけでなく日ごろの学びについても情報交換することができ、いつもと違う環境で学べて「すごい」「面白い」と感じることもたくさんあった。滋賀医科大学の学生を中心とした研修ということで初めはとても緊張したが、だからこそ良い緊張感をもって望むことができたし、初めましての方々の前で自己紹介をしたり今日の学びを述べたりといった機会も良い経験になった。今回本当に参加してよかったと感じることができたので、今後も機会があればこのようなイベントへの参加も前向きに考えていきたい。

滋賀県立大学 人間看護学部 第1学年

素敵な宿泊研修に参加させていただき、ありがとうございました！
 宿泊研修に参加して、地域医療の大切さについて改めて考えることができました。
 病院や診療所での治療だけではなく地域に住む住民の方の健康を支えるためにはどのようなサービスや支えが必要なのか考えていく必要があると感じました。
 また、地域包括ケアセンターいぶき様の見学では、施設見学時に見た利用者さんの笑顔が印象的でした。地域の方(利用者さん)にとってこの施設はサービスの提供の場だけではなく、居心地のよい居場所になっているのではないかと考えました。
 今回の研修を通じて、その人らしさやその地域に合わせた医療の提供の重要性を再認識しました。将来看護師として働く際には、患者さんの気持ちに寄り添いながら、その人が地域で安心して暮らせるように、退院後の生活も考えながら支援できる存在になりたいと思いました。

滋賀県立大学 人間看護学部 第1学年

今回、初めて2日間の宿泊研修(彦根・米原方面)に参加させていただきました。私は米原市出身ですが、これまでに地域包括センターなどの施設を訪れる機会がなく、地元にも自分の知らない取り組みが数多くあることに驚かされました。各施設では、医療や福祉の専門職の方から地域での支援体制について具体的に説明をいただき、地域に根ざした活動の大切さを実感しました。

さらに、ワークショップでは精神障害を抱える当事者の方々から直接お話を聞くことができました。生活の中で感じておられる困難や支援のありがたさを直接聞くことができ、精神障害に対する理解が深まりました。

今回の研修を通じて、地域と医療・福祉が連携する意義を学び、自分自身の将来の学びや関わり方を考えるきっかけとなりました。2日間ありがとうございました。

滋賀県立大学 人間看護学部 第1学年

地域里親研修旅行に参加し、ワークショップで精神障害やALS、アルコール依存症の当事者からお話を伺い、当事者の視点で考え理解していくことの重要性を学べました。病院訪問では、実習では見ることの出来ないところまで見学させていただくという貴重な体験ができました。また、多職種連携の重要性や地域医療についての学びを深めることができました。将来地域で働いていく上で、今回学んだことを活かしていきたいです。

滋賀県立大学 人間看護学部 第4学年

今回の研修では、当事者からのお話や実際に施設に訪問し、どのような活動をしているかを学ぶことで地域医療について学ぶことが出来た。医療従事者として働く上で病院に入院されている患者だけでなく、退院した方や地域全ての住民をもちろん支援出来るような体制をとるのことが大切だと感じた。今後へき地での高齢者の増加やICTの普及などにより在宅診療や遠隔診療が増える可能性があるが、これらの制度が充実することによって漏れなく医療を提供出来ることに繋がるのだと学ぶことが出来た。病院で働く上で院内のサポートだけでなく、退院支援やその後の生活での自立支援のためのサポートにも目を向けて患者の助けになればいいなと考える。

滋賀県立大学 人間看護学部 第4学年

自助グループの方々とのワークショップにて、支援が必要になったときにどのように支援につながる事ができたのかというご自身の体験談や、自助グループで活動する中で支援を継続して受け続けてもらうために意識していることをお聞きすることができ、大変興味深かった。私は看護師として今後支援が必要な方に関わることになる。本研修で知ることができた当事者の方々の声を心に留め、これからはどのような支援があるかにとどまらず、利用者さんがどのような思い・望みを持って自助グループに参加するのかにまで十分に思いを巡らせ、支援の開始・継続につながるような声かけができるようにしたいと思った。

地域の方々を支えている地域の医療機関でお話をきくなかで、改めて高齢化が進む中での在宅医療の需要増加を感じた。また、医療技術の進歩により助かる新生児の命が増えた分、小児の看取りを含む在宅医療にも大きな需要があるのだと感じた。地域には小児から高齢者までさまざまな年代の方がいるのだと実感するとともに、地域とはその人らしく生きるための生活の場であり、命の長さに関係なくその人の一生を支える診療があることが地域で過ごす上での安心感につながるのだと思った。家族の生活をまるごと見守る地域医療の一部に携わるという自覚を持って患者さんと関わっていきたくと改めて決意するきっかけになった。

第一弾!

2025年
7月2日(水)

訪問看護における多職種連携について

滋賀医科大学医学部看護学科

第3学年 北村 幸大

1年生の頃より課外授業シリーズを受講させていただき、地域医療についての学びを深める中で、今年度から看護学科の回も開催することとなり、看護学科の代表として第1回目を務めさせていただきました。また、今年度より看護学科では『地域枠』という受験方法が開始され、地域医療に興味のある学生も増加していることから、訪問看護ステーション ゆげの訪問看護認定看護師 雨森千恵美先生を講師にお迎えし、『訪問看護における多職種連携について』というテーマでご講義いただきました。



講義では、雨森先生のこれまでの訪問看護師としての経験をもとに事例紹介していただき、事例を通して訪問看護師の役割や地域医療での多職種連携についてお話いただきました。特に印象的だった事例は、直腸がんの末期で、様々な揺れる想いを抱えていらっしゃるAさんの事例です。事例の中で、訪問看護師がAさんの想いの実現についてどのような援助をされたのかをご紹介いただきました。例えば、美容師である孫に散髪をしてほしいという想いについては訪問看護師が家族と共有して実現したり、お世話になった先生や親族に挨拶がしたいという想いについては、訪問看護師がAさん自身で手紙を書いて渡すことを提案して実現されていました。特にAさんは散髪をされた数日後に亡くなられたのですが、棺に納まる祖母をみた孫が「あの時そろえてあげられて良かった」と話されたとお聞きしました。このように、訪問看護師の役割として、看護師として利用者さん本人の健康を守るのみならず、家族単位で想いの実現を援助されているということを実感しました。

多職種連携については、訪問介護・訪問入浴・訪問薬剤師・訪問リハビリテーション・福祉用具など在宅医療における多職種のそれぞれの役割や必要性、どのように連携しているのかなど、在宅医療の実際を詳しく教えていただきました。また、弓削メディカルクリニックでは在宅診療アシスタント（在宅PA）という特徴的な職業があり、訪問診療のサポートとして重要な職業であることや、訪問看護における在宅PAとの連携などをお話いただきました。講義の後半では『これからの多職種連携について』という内容でグループディスカッションを行い、意見交換や質疑応答する時間が設けられました。講義



後のアンケートでは、「訪問看護師についてあまり知らなかったが講義を受けたことでどのような役割があるのかを理解できた」「事例をもとにお話しして下さったことで場面が想像しやすかった」「具体的にどのような多職種連携が行われているのかを知ることができた」などの声が多数あり、参加した学生にとって非常に有意義で貴重な経験をさせていただくことができました。

第二弾!

2025年
10月16日(木)

ウェルビーイングから捉える地域医療

滋賀医科大学医学部医学科

第6学年 十倉 希望



課外授業シリーズ第二弾は、「コミュニティナース×総合診療医 “まち” に出て“つながり” でケアする～おせっかいと社会的処方～」と題して開催しました。島根県出雲市で実践を積むコミュニティナースの多々納知鶴氏（株式会社CNC）と、社会的・文化的処方の研究と実践を行う孫大輔先生（鳥取大学）を講師にお招きし、会場・オンライン合わせて多くの医学生・看護学生が参加しました。



第一部では、多々納氏よりコミュニティナースの実践についてお話いただきました。コミュニティナースとは、特定の職業や資格ではなく、「地域の人の暮らしの身近な存在として、心と身体の健康と安心を、まちの人と一緒につくっていく」実践のあり方です。医療機関に集まる身体的・精神的課題の手前には、孤立や不安といった社会的健康の課題があり、これらは地域の人々の「おせっかい」によって支えられる可能性があることを学びました。雲南市で行われている「地域おせっかい会議」の実践からは、個人の情熱と地域から求められる役割が重なることで、無理のない形で力強い支援が生まれることを知りました。

第二部では孫先生より、地域医療に従事する医師が目指すものは、人々とコミュニティのウェルビーイングを支えることである、という視点が共有されました。そのための手段として、地域文化や社会的・文化的処方、さらには住民との映画製作など、幅広いアプローチが紹介されました。「社会的処方」とは、薬を処方するのではなく、地域の繋がりや活動へと患者さんをつなぐことで孤立を防ぎ、ウェルビーイングを高める仕組みです。病院という「生活世界の外」で待つのではなく、医療者が地域という「生活世界の中」へと出て行き、人々の行為の意味を理解しようと努めることが、全人的なケアに繋がることを実感しました。

今回の授業を通じて私は、患者さんを「特定の疾患をもつ個体」としてではなく、「地域という物語の中で生きる一人」として捉える視座の重要性を再認識しました。医療だけでは解決できない課題に対し、地域の人々や文化とともに関わる姿勢は、これからの地域医療に欠かせない要素だと感じます。医学教育では診断や治療といった「解決策」に主眼が置かれがちですが、地域に出ると医療だけでは応えきれない暮らしの悩みや孤立に直面します。今回は、そうした現実実際に向き合い行動している先達と出会い、語り合う貴重な機会となりました。

今回の授業を通じて私は、患者さんを「特定の疾患をもつ個体」としてではなく、「地域という物語の中で生きる一人」として捉える視座の重要性を再認識しました。医療だけでは解決できない課題に対し、地域の人々や文化とともに関わる姿勢は、これからの地域医療に欠かせない要素だと感じます。医学教育では診断や治療といった「解決策」に主眼が置かれがちですが、地域に出ると医療だけでは応えきれない暮らしの悩みや孤立に直面します。今回は、そうした現実実際に向き合い行動している先達と出会い、語り合う貴重な機会となりました。

ご登壇いただいた講師の皆様、ならびに開催を支えてくださった皆様に、心より感謝申し上げます。



第三弾!

2025年
10月30日(木)

災害下におけるフェーズレスな プライマリ・ケアの実践

滋賀医科大学医学部医学科

第2学年 上坂 太駈



課外授業シリーズ第3弾（10/30開催）では、「災害医療×地域医療」をテーマとしてごちゃまるクリニック院長の小浦友行先生にご講演いただきました。ごちゃまるクリニックは、小浦先生がご自身の故郷である石川県輪島市で2022年に開業された総合診療クリニックです。赤ちゃんから高齢者まで、外来から訪問診療まで切れ目のないプライマリケアを幅広く提供されています。「ごちゃまる」という



クリニックには似つかわしくない名前を聞いて疑問に思う方も多いかと思います。「ごちゃまる」とは「ごちゃまぜ」と「まるごと」を組み合わせた言葉です。「ごちゃまぜ」とは、医療の枠を超えた多職種・多事業での相互作用、「まるごと」とは多次元での全体最適を目指すことを表しています。外来・在宅ケアのみならず「地域ケア」として、地域でのお祭りの企画や、若者の居場所づくりなどの事業などにも取り組まれています。2023年12月にはクリニック一周年を迎えたところでした。

その矢先に直面したのが、2024年1月1日の能登半島地震です。最大震度7の激震で、クリニックも大きなダメージを負いました。発災直後から、医療ニーズ以上に看護・介護ニーズの増加が大きく、衛生環境の整備や徘徊高齢者の介護などが切実な課題となったそうです。その後も、発災後の超急性期から復興期にかけて、また豪雨による二重被災もあり、様々な問題が発生します。先生はこの震災を「超高齢化と少子化が進むへき地の半島で発生した頻回かつ大規模な地震」と振り返ります。その中で、先生は模索を繰り返しながらも多職種でのプライマリ・ケアの提供に奔走されました。日常の場における「地域医療」と極限状態における「災害医療」は一見対極にあるように思えます。しかし、この二者が地続きなものであり、日頃から地域に根差した活動を行っているからこそ、災害時においても地域で医療を繋ぎ止められるのだろうと今回考えさせられました。先生の生身の被災体験を伺うことができ、講演後には「思わず涙腺が緩んだ」という声もあった程、参加者からは高い反響をいただきました。

今回は、私の「災害医療」というごく個人的な関心事を「課外授業シリーズ」という枠組みを通じて、講演会として実現させていただいた形となりました。学生の興味を反映し、学生主体でこのような企画をできる環境が整っていることが非常に恵まれていると感じています。ご講演いただいた小浦先生、実施にご協力くださった医学・看護学教育センターはじめ関係者の皆様本当にありがとうございました。



滋賀医科大学看護学科学学生対象

「看護職合同就職説明会」を開催しました

令和7年12月12日(金)、滋賀医科大学において、滋賀県内の医療機関21施設をお招きし、滋賀医科大学看護学科学学生を対象とした看護職合同就職説明会を開催いたしました。本説明会は、看護学科の学生が県内医療機関の特色や現場の声を聴くことで、卒業後のキャリア選択の幅を広げることを目的としています。あわせて、県内医療機関への理解を深めることで、県内就職率の向上を目指す貴重な機会となっています。

各施設のブースでは、採用担当者や現場で活躍する看護師・助産師・保健師の方々に、パンフレットやスライドを用いて施設の強みや教育体制、福利厚生などを説明していただきました。

参加者からは「今後の進路選択に役立つ情報を詳しく知ることができ、大変参考になりました」という感想が多数寄せられております。

本学では、今後もこのような機会を通じて、学生と県内医療機関との橋渡しを行い、滋賀県内の医療体制の充実に貢献してまいります。

ご協力いただいた各施設の皆様、並びに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

【当日の様子】



【参加施設（50音順）】

医誠会国際総合病院（神崎中央病院）、ヴォーリズ記念病院、淡海医療センター、
近江八幡市立総合医療センター、大津赤十字病院、公立甲賀病院、
滋賀医科大学医学部附属病院、滋賀県立病院（総合病院・精神医療センター）、
市立大津市民病院、市立長浜病院、市立野洲病院、JCHO滋賀病院、高島市民病院、
長浜市役所、東近江市保健センター、東近江総合医療センター、彦根市立病院、
彦根中央病院、びわこ学園、訪問看護ステーションなかさと、竜王町役場

令和7年度 里親学生支援事業 研修会・意見交換会を開催しました

2025年12月7日(日)、本学湖医会ラウンジにおいて、地域里親学生支援事業の一環として里親・プ
チ里親等対象の「研修会・意見交換会」を開催しました。

研修会には里親を務める先生方、プチ里親を務める地域の皆さま、後援会役員の方々にご出席いた
だき、里親学生支援室 相見 良成 室長（本学基礎看護学講座（形態生理学）・教授）が、「里親学生支援事
業のこれまでと、これからの取り組みについて」と題して、講演を行いました。

講演では、地域里親学生支援事業について、文部科学省の「平成19年度新たな社会的ニーズに対応
した学生支援プログラム」に、地域医療を担う医師・看護師の育成をめざす地域参加型支援事業『地域「里
親」による医学生支援プログラム』（里親GP）が採択され、2007年11月から2011年3月まで、文部
科学省の補助金を受けたこと、また、補助金事業期間の終了後も、本学の独自事業として継続してきた
経緯などを説明しながら、これまでの取り組みをクリッカーを用いてクイズ形式で出題し、出席者が楽
しみながら理解を深めました。講演後は、今後の本事業の取り組みやプチ里親の確保などについて意見
交換を行った後、引き続き、懇親会にて交流を深め、和やかな雰囲気の中、研修会は終了しました。

本学地域里親学生支援事業は、1人でも多くの卒業生が滋賀県内の医療に従事することを目的とし、
深刻化する地方の医師・看護師不足の解決を目指す取り組みを行っていますので、この活動の趣旨をご
理解いただき、引き続きご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

また、次年度におきましても、本会の開催を予定しておりますので、関係者の皆様、是非ご出席賜り
ますようお願い申し上げます。



相見良成 教授



講演の様子



懇親会の様子



記念撮影

滋賀県医師キャリアサポートセンター (滋賀県地域医療支援センター) からのお知らせ

滋賀県医師キャリアサポートセンターは、こんなところですよ!

滋賀県の地域医療支援センターとして、地域医療に従事する医師の確保・定着のため、県・滋賀医科大学の共同で設立されました。

センターでは、修学資金等被貸与者の面談や、総合相談窓口等設置による若手医師等の就労支援に取り組むとともに、滋賀県医師キャリア形成プログラムとキャリア形成卒前支援プランにより、継続的なキャリア形成支援体制を強化しています。

滋賀県

センター長
健康医療福祉部次長

センター長の切手です。滋賀県医師キャリアサポートセンターは、県内の医師確保と偏在是正のコントロールタワーとして、関係機関と連携しながら取組を進めています。県・滋賀医科大学・県内病院が一体となり、地域に根差した医療を提供して下さる医師を育てていきたいと考えています。医学生・医師の皆さまのご参加・ご相談をお待ちしています。

顧問

- ・健康医療福祉部顧問
- ・健康医療福祉部参与

県医療政策課では、滋賀医科大学に地域枠で入学された方、全国の医学部の入学初年度の方を対象に修学資金等を貸与しています。将来、県内で地域医療に貢献いただける方は是非ご活用ください!

事務

健康医療福祉部 医療政策課

滋賀医科大学

滋賀県医師キャリアサポートセンター事業 企画推進部門

副センター長

医師臨床教育センター長
(教授)

副センター長

医学・看護学教育センター
副センター長(教授)

アドバイザー

・医学・看護学教育センター
副センター長(教授)
・医師臨床教育センター
副センター長(特任准教授)

学務課長

クオリティマネジメント課長

キャリアサポートセンター副センター長・医師臨床教育センター長の川崎です。
滋賀で描く医師としてのキャリアを具体的な形にどうデザインするか、皆さんの迷いも不安も力に変えるお手伝いをいたします。

主任専任医師

(キャリアコーディネーター)
医師臨床教育センター
副センター長

専任医師

(キャリアコーディネーター)
医師臨床教育センター
副センター長

キャリア専任医師の山原です。専門は腎臓内科です。キャリアサポでは、主に修学資金等の貸与を受けている方を対象に面談を行っています。学生時代から義務年限終了まで、医師としてのキャリアを長期にわたって全力でサポートいたします。

キャリアサポ専任医師の佐藤です。滋賀医科大学26期生で普段は小児科医をしています。貸与者面談や卒前支援プログラムなど、楽しい業務を担当しています。これからも、もっとキャリアサポの業務を充実させられるようがんばります。

事務支援チーム

専任事務

クオリティマネジメント課
病院研修係(キャリアサポ担当)

キャリアサポ事務局では、修学資金等を貸与されている方のキャリア形成にかかる支援を行っています! 学生さん向けには、地域医療を学ぶ機会を提供する「卒前支援プラン」の各プロジェクトを実施しています。相談窓口を設置しておりますので、是非ご活用ください!

**ご相談は、滋賀医科大学医学部附属病院
D病棟1階事務室へ!**

いろいろ、あるんです! キャリサポイベントをご紹介します

※キャリア形成卒前支援プランの一部です。

1. OB・OG会

先輩医師と修学資金等を貸与されている学生の交流会です。県内従事期間中のリアルな働き方を聞きながら、キャリアプランやライフイベントとの両立など、悩みや不安、疑問を参加者みんなで話して考えます。



2. プチ・クラ(病院見学)

修学資金等を貸与されている2年生・3年生を対象に、希望の診療科で半日~1日程度の見学ができる滋賀医科大学医学部附属病院の見学企画です。プチ・クラという愛称には、ちょっと早めのクリクラ体験の意味が込められています。



3. 手技体験会

滋賀医科大学医学部附属病院のスキルズラボのシミュレーターを利用した手技体験イベントです。普段医師として活躍する先生方からの直接指導を受け、内視鏡・心エコーの操作体験、分娩体験など、実際に触れて学ぶことができます。毎回様々な診療科の先生を講師としてお招きする予定です。



お問い合わせ先

滋賀県医師キャリアサポートセンター

滋賀医科大学クオリティマネジメント課 病院研修係内(附属病院D病棟1階)

住所: 〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

TEL: 077-548-2826 E-mail: ishicsc@belle.shiga-med.ac.jp

相談窓口も設置しています。
詳しくはキャリアサポHPをご覧ください。





医療のチカラで、 笑顔と安心を。

Professional Endoscopy & Health Check

内視鏡検査は

「苦しい・怖い」というこれまでの常識を覆します。

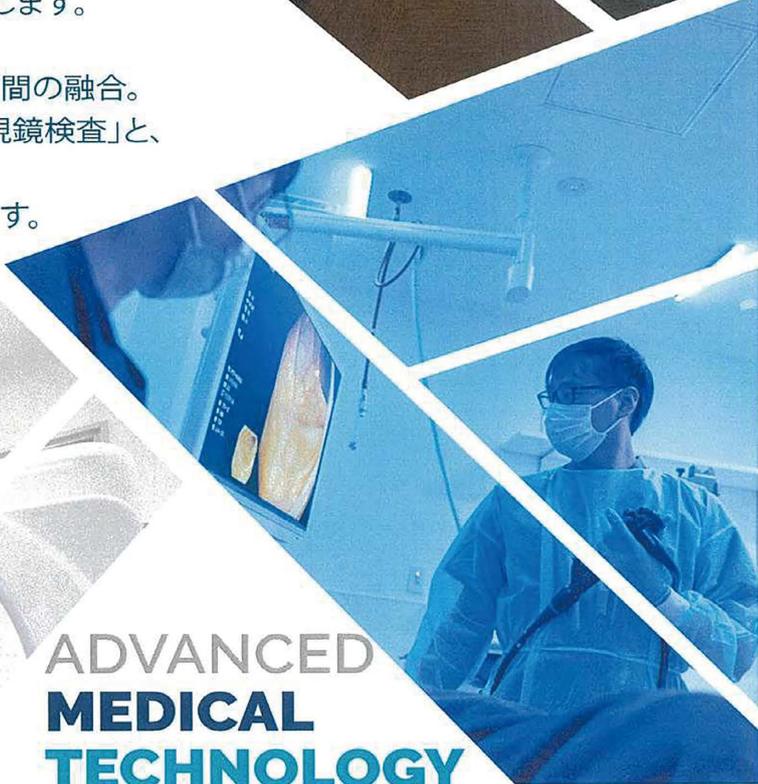
当院が目指すのは、

高度な医療技術と、心安らぐホテルライクな空間の融合。

鎮静剤を用いた「眠っているような状態での内視鏡検査」と、

リラックスできる空間で、

地域の皆様に笑顔と安心をお届けします。



ADVANCED MEDICAL TECHNOLOGY

滋賀県クリニック初導入のAI診断支援システムと、
頭からお腹まで全身を診ることができるCT。

最新鋭のテクノロジーで、高度な精密検査を実現します。



南草津 おなかと胃・大腸カメラのクリニック

Minami-Kusatsu Endoscopy Clinic

Information

Address

〒525-0050
滋賀県草津市南草津2丁目3-11

Phone

077-558-6778

Web

<https://kusatsu-naishikyo.com/>



公式Webサイトはこちらから 公式Webサイトはこちらから

医療を支える“つながり”の中で、 あなたが活躍するために

滋賀県医師会理事 布留 守敏



医療の現場は、一人ひとりの力だけで成り立っているわけではありません。医師、看護師をはじめとする多くの医療従事者が、それぞれの立場で役割を担い、支え合いながら、日々の医療は成り立っています。こうした連携があるからこそ、医師は安心して医療を行うことができます。

社会の変化とともに、医療を取り巻く環境も少しずつ変わりつつあります。高齢化の進行や医療技術の進歩により、医師に求められる役割はますます広がっています。一方で、国民の安心と安全を守り、将来にわたって医療を続けていくことは、医療に関わるすべての人に共通する課題となっています。

医療は、国民の生命と生活を支える社会の基盤です。少子高齢化が進む中で医療需要は今後も増えていく一方、医療を担う人材や財源には限りがあります。そのため、「医療費をどうするか」という議論だけでなく、必要な医療をどのように維持し、次の世代へつないでいくかという視点が重要になっています。

令和8年度には診療報酬改定が予定されています。診療報酬は、医療機関が行う医療行為や医療体制を点数で評価し、その対価として支払われる費用を定めた仕組みであり、日本の医療の方向性に大きく関わる制度です。地域医療や救急医療、在宅医療、医療従事者の働き方など、医療の現場の持続可能性に直結する多くのテーマが含まれています。

こうした医療の仕組みを考え、よりよい方向に変えていく場の一つが、医師会です。医師会は、診療所を開設・管理する医師だけでなく、病院や診療所に勤務する医師など、さまざまな立場の医師が集まる組織です。滋賀県医師会では、診療所医師が半数を占め、残りは病院・診療所の勤務医です。立場や専門の違いを超えて現場の声を共有し、よりよい医療につなげていく役割を担っています。

また医師会は、日々進歩する医療に対応するため、最新の知識や情報を共有し、世代や専門分野を超えて学び合う場でもあります。講演会や研修会を通じて、経験豊富な医師の知見に触れながら、互いに学び続けることができる環境が整えられています。

学生の皆さんは、将来、医療現場の最前線に立つ存在であると同時に、この医療の仕組みの中で働く当事者になります。医療は、現場だけで完結するものではなく、人と人とのつながりや支える仕組みによって成り立っていることを、医師会という学びと交流の場を通して少しずつ知っていくことも大切です。

皆さんが医療者として歩み始めるその時、医療を支える“つながり”の中で、医師会という場で自分らしく活躍する姿を思い描いていただければ幸いです。



入会・ご寄附のご案内

皆様からの会費とご寄附金を財源として活動を進めてまいります。出費がかさむ折とは存じますが「地域医療を担う医学生看護学生の育成支援事業」にご支援いただける方々のご協力をお願いいたします。

| 会員の種類 | | 会費 | 入会金 (初年度のみ) |
|-------|----|---------------------------|----------------|
| 正会員 | 個人 | 年会費 2,000円 + 寄附金 3,000円以上 | 5,000円 |
| | 団体 | 年会費 5,000円 + 寄附金 5,000円以上 | 10,000円 |
| 賛助会員 | | 毎年 1,000円以上 できたら 3,000円以上 | |
| 寄附金 | | 随時受付けております | |

広報誌「めでる」

広告募集

貴施設の魅力を発信するために「めでる」を活用しませんか？

滋賀県内の医療機関、将来の医療人、地域の方々に配布しています

掲載料 A4 1 ページ 50,000円
A4 1/2ページ 30,000円
A4 1/4ページ 20,000円

詳細は事務局までお問合せください
TEL : 077-548-2168
Mail : medsatooya@gmail.com



編集後記 

滋賀医療人育成協力機構は、主に医学生・看護学生に滋賀県の医療や文化に関心を持ち、理解を深めてもらうための活動をしています。将来、地域の医療を担う学生を、医療系教育機関、自治体、医療機関、医師会、看護協会、地域の皆さまと協力して支援していきたいと思っております。広報誌「めでる」は年2回発行し、活動内容を紹介しています。皆さまのご協力ご支援をお願い申し上げます。

NPO法人滋賀医療人育成協力機構 広報誌「めでる」vol.26

発行：2026年3月20日
編集：NPO法人 滋賀医療人育成協力機構
所在地：滋賀県大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学内
TEL : 077-548-2168
URL : <https://www.shiga-iryo-ikusei.jp/>